

平成19年5月31日から6月2日の日程で、本学教職員4名が西安外国語大学を訪問しました。今回の訪問は、今後の学生交流及び教職員交流の促進と奈良教育大学の紹介を日本語専攻の学生の皆さんを対象に実施することが主な目的でした。

これまで、西安外国語大学と奈良教育大学との間には、2005年6月に交流協定が締結され、昨年10月9日から18日にかけて西安外国語大学から教員2名、学生9名を招いて国際大学交流セミナーを開催するなど、両校の間には交流促進への環境が整ってきま

た。西安外国語大学訪問の前日には、戸思社学長、劉越蓮副学長をはじめ、西安外国語大学関係者の方々にご出席いただき、歓迎レセプションを設けていただきました。このレセプションにおいても、今後の両校の交流について活発な話し合いが行われました。

翌日、西安外国語大学を訪問しました。西安外国語大学をはじめ多くの大学が、西安市中心部に所在していたものを車で30分位の郊外に集中的に移転したため、大規模な学研都市が形成されていました。それぞれの大学の敷地が数100万平方メートル以上もあり、建物の規模も大変大きく、教育環境の充実ぶりには驚かされるばかりでした。

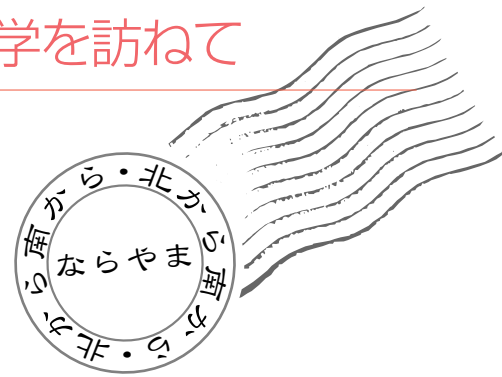
例えば、西安外国語大学では、正門を入ると写真の図書館（建築面積は4300平方メートル、各種蔵書126万冊）が正面にあります。数100メートルは歩かなければなり



図書館

西安外国語大学を訪ねて

学生支援課長
荻野 正之



日本語専攻の学生への大学紹介



国際交流担当者

せん。また、学生食堂は3階建てで、1フロアに1000人程度収容できる広さです。それが昼食の時間になると一杯になるのですから、学生が多いことを実感します（約1万8000名）。今後、敷地内に、ホテル、病院、宿舍等を建設し、学習環境はもとより生活環境も合わせて整えていくとのことでした。

午前中行われた交流の打ち合わせの結果、今後両大学で課題を引き続き検討していくこととなりましたが、西安外国語大学からは、奈良教育大学の学生を受け入れる際には中国語を話せなく

ても問題はなく、レベルに応じた指導を行うことができるとの提案もありました。

奈良市と西安市は、共に古都としての歴史的伝統を有し、市域には世界に誇る文化遺産が存在していますので、歴史、言語、文化等に興味のある学生の皆様は積極的に交流していただければと思います。

午後からは、西安外国語大学日本語専攻の学生（約200名参加）を対象に本学の大学紹介を行いました。日本語で説明したのですが、日本人の学生を対象に説明した時と同じところで笑いがあり、日本語の理解が優れていることと、日本への関心の高さをあらためて実感した次第です。

最後に、西安滞在中にご協力いただきました国際協力交流部をはじめ、関係者の皆様にお礼を申し上げます。